

## 令和5年度第1回 静岡市農業振興協議会会議録

- 1 日 時 令和5年10月3日(火) 14時00分～15時30分
- 2 場 所 静岡市役所清水庁舎 3階 第1会議室
- 3 出席者 (委員)  
森田会長、石切山副会長、三津山副会長、朝比奈委員、  
市川委員、佐藤委員、竹内委員、徳田委員  
(事務局)  
大村農林水産統括監、小川農林水産部長、  
気田中山間地振興担当部長、花村農業政策課長、  
遠藤農地利用課長、石田農地整備課長、太田中山間地振興課長、  
鈴木お茶のまち推進担当課長、石川課長補佐、水嶋係長、  
小泉係長、宇佐美係長、永野主任主事、岡部主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 次 第
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱状交付
  - (3) 議事
    - ①第1次静岡市農業振興計画(平成27年度～令和4年度)の実績について
    - ②第2次静岡市農業振興計画(令和5年度～12年度)の進捗について
    - ③静岡型持続可能な農と食の地域循環システムの構築について
  - (4) 閉会
- 6 会議内容
  - 開会 会議成立の報告(委員9名中8名出席により、会議は成立)
  - 委嘱状交付 出席委員に委嘱状の交付
  - 会長 委員互選により、森田委員を会長に選出
  - 副会長 森田会長より、石切山委員、三津山委員を副会長に指名
  - (3) 議事
    - ①第1次静岡市農業振興計画(平成27年度～令和4年度)の実績について  
(事務局)  
「①第1次静岡市農業振興計画(平成27年度～令和4年度)の実績について」  
を資料1・2により説明

(石切山副会長)

資料1について、成果指標の実績値と目標値の並びが違う表が混在していますので、統一した方が見やすいと思います。

(事務局)

今後は、統一するようにいたします。

(市川委員)

提案力の「茶輸出関連事業における現地茶業者の「静岡市のお茶」取扱量」について、取扱量が増加する中で生産者にはどういう効果があったのかを分析されているようでしたら教えてください。

(森田会長)

目標値 2,700 kg に対し実績値は2倍以上となっていますので、生産者にメリットとして感じられるようなことがあるかということだと思います。事務局から意見ありますか。

(事務局)

目標値を上回ったものの、全体量としてはこれからの段階にあると認識しています。輸出においては、品質管理など様々な制約があり、それが障壁となることがありますが、世界では緑茶の需要が高まっています。それに対応した緑茶の生産量を増やしていくことで、少しでも生産者にメリットを感じていただけるように、補助制度や検討会などで知見を広く周知するなどの取組を行っていきたいと思います。

(市川委員)

また、産地力の「認定農業者1経営体あたりの農地集積面積」について、意見があります。農業の場合、主に土地利用型と施設型があり、土地利用型はお茶やみかんなど、施設型はいちごなど土地利用型と比べるとそれ程農地を必要としないものです。指標が1経営体あたりの農地集積面積ですと、施設型が増えた場合、数値に反映されないことが考えられるため、指標を設定した理由はあると思いますが、農地面積や認定農業者数などの指標の方が実態を表すのかなと感じました。

(森田会長)

事務局から意見はありますか。

(事務局)

担い手への集積についてはご意見のとおりで、市には基本構想があり、担い手への集積目標を定めた計画があります。本市では耕地面積の55%を担い手に集積させていく目標であり、担い手への集積を軸に考えています。集積を基本に、農地面積なども参考値としながら、評価を行うようにしたいと思います。

(徳田委員)

提案力の「ZRATTO!しずおか」を介したリンク先への年間アクセス数は、伸び悩んでいるように見えますが、どのように市民へ周知していますか。このようなサイトを周知することで、じまん市などをはじめ地場製品の販売増加につながると思います。

(事務局)

「ZRATTO!しずおか」の周知については課題と認識しており、今年度にスマホ対応に改修するなど、見やすさとともにサイト掲載情報の充実を図るなど、引き続き魅力あるサイト作りを進めていきたいと考えています。

(竹内委員)

先ほど、地産地消の取組を行うものの、認知度がなかなか上がらないという説明が事務局からありましたが、しずおか市消費者協会においても「地産地消」の活動をしたことがあり、その際も消費者の認知度を上げることは非常に難しいと感じました。ただ、本市にはみかんやわさびなど魅力的な農産物は数多くあると思います。

(事務局)

引き続き、地産地消の認知度を上げる取組を行っていききたいと思います。

(佐藤委員)

産地力について、「認定農業者に支援を行った」とありますが、具体的に認定農業者に対してどのような支援が行われているのですか。

(事務局)

認定農業者制度は5年間の認定ということになり、5年間の終了時に再認定という手続きをすることになります。5年間の経営計画の確認をしますので、管内JAのご協力をいただいて、営農指導担当に経営状況を見てもらいながら、今後の方向性の助言やヒアリングを行っています。また、認定農業者に対して市独自の補助制度があり、補助率が3分の1で、上限100万円までの制度を活用いただくことができます。その他、国の制度で、資金借入時の利子補給支援などがあり、認定農業者の個々の事情に応じ、有効な支援制度を案内しています。

(佐藤委員)

私自身、数年前に認定農業者になりましたが、積極的な支援を受けたという印象はあまり感じていませんので、わかりやすいメリットがあるといいと思います。また、補助制度については、補助率が3分の1と低く、5年に1回しか使えないというのは大変だとよく聞きますので、改善していただけると良いと思います。

(事務局)

参考にさせていただきます。

(森田会長)

実際に認定農業者の方が思っていることを市が受け止めて、JAなど関係機関とも連携しながら、認定農業者の方がメリットを実感できるようになるのがよいと思います。他にいかがでしょうか。他にないようですので、次の議題に移らせていただきます。

(事務局)

「②第2次静岡市農業振興計画（令和5年度～12年度）の進捗について」を資料3・4・参考1にて説明

(森田会長)

第2次計画とアンケート結果について報告をいただきました。これについて皆様から何かご質問等ございましたらご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。では、私からですが、資料4に計画登載事業が列記されていますが、同じ事業名がいくつもありますので、整理が必要だと思います。事業によっては、複数の施策や全体的に関係するものがあるため再掲となっているかと思いますが、主となる項目のみに記載したり、縦軸で表現したりなど工夫した資料にすべきだと思います。また、予算がない事業があったりなど、扱いがわかりづらいところがあると思います。

(事務局)

予算がない事業は、関係者と協議中のもので、まとまり次第予算化を予定しているものです。表現については、ご参考にさせていただきます。

(竹内委員)

今回グリーンの取組が計画に入っているところが消費者としてはとてもありがたいことだと思います。消費者は安全安心な食品を求めています。一部の消費者の中には、有機農業やなるべく農薬を使わないことなどを求める方がいますが、有機農業等は生産者に負担をかける部分もあり、そのバランスは難しいところがあると思います。また、グリーンの取組は、外から人を呼ぶこともできるのではと思いますが、オクシズ地域で観光農園を行っているところはありますか。

(森田会長)

観光農園等の農業関係でのツーリズムも含めてお答えいただければと思います。

(事務局)

現状、オクシズ地域に観光農園はありません。過去にわさびのオーナー制度がありましたが、事業継続はできなかったかと思います。昨今、環境への意識が高まってい

ますので、オクシズならではの農産物の活用策を考えていきたいと思います。

(森田会長)

他にいかがでしょうか。他にないようですので次の議題に移らせていただきます。

(事務局)

「③静岡型持続可能な農と食の地域循環システムの構築について」を資料5にて説明

(石切山副会長)

グリーン農業フォーラムとはどのような取組ですか。

(事務局)

農業者や企業・研究者などを構成員としたフォーラムを立ち上げようと考えています。普段から、皆さんと色々な場で繋がってはいますが、農業課題に対していろんな分野の掛け合わせを行うことで、解決に向けた取組を行っていきたいと考えています。最初は手探りで始めていくことになると思いますが、好事例を皆さんにお示ししながら、最終的にうまく循環していくような流れを作っていきたいと考えています。現在は、開催に向けて関係機関と調整しているところです。

(森田会長)

グリーン農業の「グリーン」とは何を指しているのでしょうか。環境を指す今までのものならグリーンフォーラムとし、農業をそこに組めばよいのではないかなと思いますが、ここを重ねた理由はありますか。その背景としては、農業振興は農業だけではできないというのが、私のいつも思っているところです。農としてはこの地域循環でよいと思いますが、農だけでなく海と山などの中に農があるという位置付けのような、全体像の中に農しかないのは限界があると思います。当然ながら政策の上でも、海洋政策や水産であったり治水や防災との関係であったり、そういうところと結びついて、農業政策が成り立っているように見えるのがよいと思います。そういう意味で、グリーン農業の取組をこれからやっていく中で、中心に農業があった場合にはこういう政策を展開していくというような静岡市全体の方向性が見える方がよく、農業だけに限ると視点が狭くなってきてしまいます。そうすることで、農に市民としても関係していると感じることができ、農業との関係性が良くなったり、市民参加が増えたりすると思います。

(事務局)

ご意見、ありがとうございます。確かに、ご意見のとおり農を中心としていますが、資料5-3の左側にある加工流通販売業者も含めた表現をしているとおり、農業関係者だけじゃないってところはしっかりと持っていないと、このシステムはうまく機能しないと考えています。そこをしっかりと意識して、DXやGXとか様々な変革

の取組をしていきますので、その中の一つということで、うまく絡めていけるようなことは幅広く見ていきたいと思えます。新しい視点も入れてこのシステムを考えていきますで、色々な意見をいただきつつ変化しながら進めていきたいと考えています。

(徳田委員)

アンケートの結果を見させていただきました。有機農業は、お茶、米、野菜が難しいと思えます。市が積極的にPRしていただくことで、農家も有機に携わることができると思えます。

(事務局)

本計画において、有機農業という単語が出ておりますけども、環境への配慮を進めていく中で、農家の皆様の協力はもちろんですが、まずは消費者に対して意識を醸成し、しっかりとその価値をわかっていただくことで購入に繋げていきたいと考えています。消費者向けにどのようなPRを行うかを検討していきます。

(森田会長)

この話を続けていくと、農業で終わってしまうと思えます。先ほど言ったとおり、それも大事だけど、例えば、地域の中で循環を考えたときに、ゴミ減量も同じ考え方にあると思えます。目線としては、単独でやるのではなくて、市民の生活に関わるころが変わっていくと最終的に農業が変わっていくというような流れの方がいいような気がするし、そういう風に考えて欲しいです。今回の環境政策のベースに環境保全と書いてありますけれども、それはどの部局でも同じだと思えます。それだったら、その上に同じ絵を書けると思うし、農業に関わる書き方はよくわかりますが、そういう捉え方をして、今までの有機農業の捉え方が変わらないと、多分あまり広がらないような気がします。次のフェーズに移らないと私達や市民に有機農業は広がらないと思うので、そのステップをぜひブレイクスルーしてほしいなと思えます。

(三津山副会長)

J Aから、市へ政策要請を行ったときに、放任竹林の竹を肥料化していければよいと伝えました。その件について、事業に組み込まれていますか。

(事務局)

放任竹林の問題は認知しています。過去には、他部局において破碎機の貸し出しなどを行っていましたが、事務負担が多く長続きしませんでした。関係部局と意見交換しながら、農業単独ではなく関係部局と連携しながら解決に取り組んでいきたいと考えています。

(竹内委員)

ある都市では、飲食業者や学校給食で発生する食品残渣をコンポストなどで堆肥化する取組が進められているようです。そういった事例を参考に、循環型社会を作って

ほしいと思います。

(森田会長)

その他意見が無いようですので、第1回農業振興協議会を閉会します。

■会議録確認署名

「令和5年度第1回静岡市農業振興協議会会議録」について、内容を確認しました。

静岡市農業振興協議会 会長

氏名(署名) 森田明雄